

再評価調書（再々評価）

事業名	二級河川牛滝川 基幹河川改修事業				
所在地	忠岡町馬瀬地先～岸和田市稲葉町地先				
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	牛滝川は、流域の宅地開発が進み、資産単価が増大しているため、洪水による被害を防止し、豊かな生活環境を築くため河川改修を進める。			
	内容	改修延長：L=約7.4km 【整備計画延長：L=約4.2km】 道路橋：25橋、鉄道橋：1橋、堰4基 用地取得：約104,000m <sup>2</sup> 目標流量：700m <sup>3</sup> /s 榎尾川合流地点（100年確率 時間雨量86.9mm） 治水安全度（現況）約210m <sup>3</sup> /s（時間雨量35ミリ程度）			
	事業費	全体事業費 計画約238億円 投資事業費約76億円 内用地費 計画約115億円 内用地費約34億円 （土地単価約11.0万円/m <sup>2</sup> ） 内工事費 計画約123億円 内工事費約42億円 （工事単価約166.2万円/m） 再評価時点における事業費 約238億円			
	維持管理費	約5百万円/年			
	上位計画	大津川水系河川整備計画 大阪府都市基盤中期整備計画（案）			
	関連事業	-			
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	再評価時点	現時点	分析
		事業採択年度 S61 事業着手年度 S61 完成予定年度 H37	S61年 S61年 H50年頃	S61年 S61年 H50年頃	大規模なJR橋梁改築をH9からH13まで行っていたため、改修延長はあまり伸びていない。
	進捗状況	用地 - % 工事 - % 整備延長7.4km  河川整備計画延長 4.2km	用地 30% 工事 30% 整備済延長 2.2km(30%)	用地 35% 工事 37% 整備済延長 2.5km(34%) 整備済（河川整備計画） 0.2km(5%)	
	途中段階の整備効果発現状況	改修済箇所では氾濫防止効果あり。			
事業進捗に関する課題					

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	再評価時点での状況	現時点での状況	分析
		河川事業 ・想定氾濫区域：562ha ・浸水戸数：16,295戸 大津川水系全体計画における想定	河川事業 ・想定氾濫区域：655ha ・浸水戸数：15,000戸	河川事業 ・想定氾濫区域：717ha ・浸水戸数：18,500戸	都市化により浸水区域内の世帯数が増加している。
事業を巡る社会情勢の変化	地元等の協力体制		JR 阪和線上流の用地取得に係る地元調整が難航していたが、事業の協力が得られるようになった。	平成14年度より包近高橋部において「プロパティ」による地元周辺住民主導の河川維持活動を契約。	新しい制度により地元の協力が得られやすくなった。

		計画時の想定		備考	再評価時点での状況	現時点での状況(変更点)	分析
事業効果の定量的分析	費用便益分析	下記、代替指標による			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>b / c = 9.24</math></li> <li>年便益 <math>b = 111.28</math> 億円</li> <li>年費用 <math>c = 12.04</math> 億円</li> <li>算出根拠 治水経済調査要綱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>B / C = 1.70</math></li> <li>便益総額 <math>B = 309.26</math> 億円</li> <li>総費用 <math>C = 182.42</math> 億円</li> <li>・ 費用便益算定の根拠： H12年発行治水経済調査マニュアル(案)</li> <li>・ 便益内容：資産被害防止効果</li> <li>・ 受益者：周辺住民、農業従事者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未改修区間を改修することにより、洪水被害を軽減できる。</li> <li>・ 河川改修による十分な費用対効果が得られる。</li> </ul>
	その他の指標(代替指標)	$c / b = (\text{トータルコスト}) / (\text{年平均被害額}) = 20.7$		便益内容：資産被害防止効果 受益者：周辺住民、農業従事者			
事業効果の定性的分析	安全・安心	・ 浸水被害の軽減(生命、財産)		・ 受益者：周辺住民、農業従事者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改修目標流量に対する現況流下能力の割合 53%</li> <li>・ 現況の治水安全度：時間雨量 35mm 程度(3年確率程度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H13年度に狭小部であったJR橋梁の改築が完了。</li> </ul>	整備計画の策定により、地域住民の意見を反映した改修事業を実施している。  地域住民との協力体制がより強化された。  周辺の景観と調和のとれた整備計画をおこなっている。
	活力	(計画時には想定されていない)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流拠点の形成(良好な水辺空間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成14年度より包近高橋部においてアドプトリバーによる住民主導の河川維持。</li> </ul>	
	快適性	(計画時には想定されていない)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観(周辺地域と調和した水辺空間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緑化ブロック等の施工による、良好な景観の創出。</li> </ul>	
	その他	(計画時には想定されていない)			自然環境(生態系の保全)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緑化ブロック等の施工による、既存種の植生回復。</li> </ul>	
自然環境等への影響と対策					牛滝川は市街化の進む中、多くの生物の貴重な生息環境となっているため、生物の生息環境に十分配慮する。	同左	整備計画に従い、自然環境の保全と回復に配慮した改修を行っている。
その他特記すべき事項		前回再評価時の意見具申・府の対応方針の概要	(意見具申)  (府の対応方針) 事業継続	今回再評価時点の反映状況			